

■■■第5章：C I A設立に関与したナチスのトップ・スパイ — 「ゲーレン機関」とC I A

■■ラインハルト・ゲーレンの情報組織「ゲーレン機関」

・独自のスパイ組織の必要性を痛感していたアメリカのルーズベルト大統領は、1941年7月に「情報調整局（O C I）」を創設。翌年、イギリスの情報機関をモデルにして「**戦略情報局（O S S）**」に改組した。

・スイスのO S S支局長だった**アレン・ダレス**は、終戦と同時に、**ラインハルト・ゲーレン**と接触することで、アメリカのスパイ組織を大きく変えていくようになる。

・**ラインハルト・ゲーレン**は、ナチス・ドイツの陸軍参謀本部東方外国軍課（F H O）で課長を務め、**対ソ諜報活動の責任者**であった。ソ連の背後に広大なスパイ網を作り、その情報分析能力を高く評価されていた。

しかし、敗戦をいち早く察知すると、ソ連関係の重要記録（50箱ものスチールケースに詰められた）をアルプスの地中に隠匿し、ソ連軍の追及を逃れて部下とともにアメリカに降伏した。アメリカにとってゲーレンの持つ**膨大な東欧共産圏の情報**は、まさに宝であった。東西両陣営の対立は大戦が終わった時点で既に動かぬものとなっていたからである。

・アレン・ダレスと元ナチスのゲーレンの2人は、紳士協定を結び、ナチスとアメリカの情報機関をつなぎ合わせた。これによって生まれたのが情報組織「**ゲーレン機関**」である。

ゲーレンが持っていたナチスの**対ソ連スパイ網**は、ほとんどそのままの形でアメリカの情報界に移植された。

・O S Sは1945年10月、平時にO S Sを置く意義を認めなかったトルーマン大統領により解散したが、諜報活動はいくつかの機関に受け継がれ、これらを取りまとめる形で1947年9月、「**C I A（中央情報局）**」が誕生した。

・初期のC I Aの東ヨーロッパにおける**対ソ情報**は、全てゲーレンによって管理・統括されていた。ときには、ゲーレンの報告がC I Aの用紙にそのままタイプし直され、トルーマン大統領の手に渡ることもあった。また、ある時期のN A T Oが有するソ連、東ヨーロッパ及び全ヨーロッパの情報のうち70%は、ゲーレンが提供したものだとも言われている。このように元ナチスのゲーレンは、実力の面でも、影響力の大きさからしても、実質上C I Aの設立者と呼ぶべき存在であった。

・C I A創設当時、ゲーレンと共に活躍したハリー・ロシツケは次のように述べている。

「1946年の時点で、アメリカ情報機関がソ連について持っている資料は、ほとんど皆無に等しかった……道路や橋、工場の位置や生産能力、都市計画や空港、こういった基礎的な資料すらなかったのである。『**ゲーレン機関**』はC I Aが基礎的な資料を入手するにあたって、主要な役割を果たしたことは事実である」

・さらに長きにわたって国務省情報調査局局長を務めたパーク・アームストロングは、「ゲーレン機関」について次のように記録している。「アメリカの国益にとって『**ゲーレン機関**』は不可欠であった。ドイツ人の提供したソ連の軍事情報は、我々の方針を左右することもあった」

■■C I Aはナチ・スパイ集団にとっての出先機関だった

●ところで、「**ゲーレン機関**」は発足当初、元S Sやゲシュタポのメンバーだった人間を雇い入れたり、逃亡中のナチ高官を庇護する組織「オデッサ」のメンバーをアメリカ情報機関の従業員名簿に登録し、彼らに避難所を提供していたと言われている。

たとえば「リヨンの虐殺者」と言われていた元S Sの**クラウス・バルビー**などもゲーレンと一緒にC I Aの情報活動をしていたことがあるし、ユダヤ人の虐殺に関与したS Sの情報員**アルフレッド・ジックス**や**エミール・アウグスブルク**といった逃亡中のナチ戦犯を雇って、対ソ情報ネットワークを復活させたりした。

要するに戦後の初期の「**ゲーレン機関**」は、アメリカが引き抜いたヒトラーのエリート・スパイたちの中心的存在だったのである。

（「[ヘブライの館2](#)」）